

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の体系を内外に明示する。	→カリキュラムマップの作成(2013年度までに)	C
2. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の適切性を検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会(研究科)による検証および研究科委員会に対する報告書の作成(2013年度までに)	D
3. 博士課程後期課程において、学位取得までのプロセスを見直し、キャンディデート制を導入する。	→「学位取得までのプロセス」の改訂(2012年度までに)	C
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

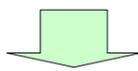
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(現状説明) 前期課程において、授業科目を履修コースごと(キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース)の必修科目および専門分野ごと(聖書分野/歴史・文化分野/組織・思想分野/実践分野)の選択必修科目に区分するなど、およそ体系だった教育課程となっていると言える。しかしながら、今後カリキュラム・ポリシーを明文化する過程で、カリキュラムマップを整備し(2013年度までに)、ディプロマ・ポリシーとの整合性を含めての精査を行う必要がある。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明) 博士課程前期課程キリスト教神学・伝道者コースにおいては、キリスト教界の指導者となるための実践的な能力を育成するカリキュラムを設ける一方、キリスト教思想・文化コースにおいては、特にキリスト教の歴史・文化、思想分野における専門知識と思索を深めるべく科目群を用意している。(キリスト教伝道者を目指すための実践的な科目:「教会経営学演習」「牧会学総合演習」「礼拝学演習A・B」「説教学演習A・B」、キリスト教思想・文化の研究を深めていくための科目:「歴史神学特殊講義A～D」「キリスト教文化学特殊講義A～D」) さらに夏期集中の実習科目として「臨床牧会実習」および「教会実習」を用意している。「臨床牧会実習」は、病院において患者本人およびその家族との係わりを通じて牧会者としての自己理解を深め、その役割を明確にしていくとともに、そのニーズがどこにあるのかに気づき、牧会方法について思索していくことを目的としている。また「教会実習」は、約4週間の教会での実習を通じ、伝道者として基本的に必要な事柄を具体的に学ぶものであるが、一時的ではなくより日常的に実習を行い、その経験を新たな考察につなげることを意図して、2010年度からは通常学期での実施とする予定である。 また、本研究科修了者に対する日本基督教団教師試験における免除科目を考慮し、それらに相当する科目から構成される「神学基礎科目群」を設置しているが、同時にこの科目群は、神学以外の他領域からの学生のように、学部において神学を十分に修めることなく入学した学生や長期に学修の機会から離れていた社会人学生などを対象に、神学の基礎を改めて学ぶ機会を与えている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	



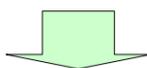
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.1.2の教育課程の編成・実施方針が明確になっていないので、現状説明の記述を判断する根拠がありません。6.1.2に立ち戻って早急な対応が望まれます。

【学内委員】

○本項目については、現状においても高く評価できる内容になっています。引き続き、目標に関して、指標に示された期限までに実現に向かうことを期待します。

○「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」における努力義務である「教育課程を通じて修得が期待される知識・能力の体系」についても、早急な対応が期待されます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、どこを見れば教育課程がわかるのか明示することも必要ではないでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

<個別的な指標>
